

歓迎のことば

宮崎県教育委員会教育長 飛田 洋

第42回九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会が、このように盛大に開催されますことを、まずもって心からお祝い申し上げたいと思います。おめでとうございます。「九州各地かい、ようくす、宮崎に来やったな。(九州各地から、ようこそ、みなさん宮崎県にお越しいただきました。心から歓迎いたします。)」

皆様方におかれましては、日頃からそれぞれの地域において、社会教育や生涯学習に多大なる御尽力をいただいておりますことを心からお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

ところで、本県は口蹄疫の発生や新燃岳の噴火と大変な災害に直面いたしました。その折には多大なる御支援を賜りまして、復興に向けた県民の大きな支えとなりました。ありがとうございました。改めて御礼申し上げたいと思います。

さて、我が県の災害においても、そして東日本大震災においても、今ほど人と人のつながり、「絆」が大切にされる時期はなかったように思います。

社会教育に携わる皆様方には、これまでの地域や職場での様々な豊かな経験をこれまで以上に生かし、地域の人をつなぎ、地域の絆をつくっていただく役割が一層大きく期待されているものと感じております。

実は、宮崎県教育委員会では昨年、これから10年先、20年先を見とおして「第二次宮崎県教育振興基本計画」という計画を策定いたしました。その中で、5つの具体的な施策の目標を立てたのですが、その1番最初の目標に「県民総ぐるみによる教育の推進」「県民総ぐるみの教育」を掲げました。社会全体の教育力を増したい、県民みんなが教育にかかわる存在でありたい、そういう思いで、そういう計画を策定させていただきました。

私事ですが、実は子どもに障がいがありまして、妻が関東で暮らしております。一市民として公職とは別に、地域の公民館の班長をしております、回覧板を配ったり、行事にかかわっている事をさせていただいております。

それから市民団体にもいくつか属しております、休みの日なかなか時間がとれませんが、子どもたちと一緒にかかわったりするようなことをさせていただいておりますが、すごくうれしいのは、その中でいろんな人と出会えることです。いろんな人の笑顔と触れることができることです。そして、何よりうれしいことは、そういうことを通して自分を成長させていただいていると実感できることであります。

本日のテーマ、「語っちみろや やっちみろや『かたい絆だ！ 社会教育』～今、社会教育に求められているもの～」の、このテーマにありますように、これからの人づくり・地域づくりについてここで熱く意見交換をされますことは、ともすれば人間関係が希薄化しているのではないかというような懸念の声がある中で、本当に時機の得た意義深いものだと考えております。ぜひ、ここで熱く語っていただいたことの成果をお持ち帰られて、これからの皆さんの活動に生かしていただきますとともに、今回御参加の皆様方の一人一人の交流が深まり、絆が深まることを大きく期待しているところであります。

先ほどの映像でもありましたが、本年は古事記が編さんから1300年目の節目の年にあたります。日向神話の舞台である本県には、県内各地に多くの伝説や伝統文化、史跡等が残されております。ぜひこの機会に、お時間の許す限り宮崎のいろんな所を訪れていただいたらありがたいと思っております。

終わりになりますが、本大会の開催にあたり御尽力をいただきましたお一人お一人の方々に深くお礼を申し上げますとともに、本日、御出席の皆様方の一層の御活躍、御健勝を祈念いたしまして歓迎のごあいさつとさせていただきます。